

# 設問別調査結果 [小学校国語A:主として知識]

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	2	ほぼ同程度	76.1
	書くこと	4	ほぼ同程度	53.3
	読むこと	2	ほぼ同程度	44.5
	言語事項	15	ほぼ同程度	65.2
問題形式	選択式	5	ほぼ同程度	55.7
	短答式	13	ほぼ同程度	69.2
	記述式	0		

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。  
 … + 3.1ポイント以上  
 … + 0.1ポイント～3.0ポイント  
 … ほぼ同程度  
 … - 0.1ポイント～ - 3.0ポイント  
 … - 3.1ポイント以下

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			全国(公立)		札幌市	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)
1-(1)	漢字を読む(自然を保護する)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読む								98.1	0.5		0.6
1-(2)	漢字を読む(全員がすぐに承知した)									89.1	4.4		6.6
1-(3)	漢字を読む(水が熱いよく流れる)									76.3	1.5		1.2
1二(1)	漢字を書く(ボールを上げる)	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く								82.6	8.5		13.8
1二(2)	漢字を書く(かぜをよぼうする)									63.0	17.2		22.9
1二(3)	漢字を書く(駅まで歩いておうぶくする)									64.4	8.6		11.6
2-(1)ア	漢字を書く(同音異義語:会場)	文脈における意味を考えながら、同音異義や同訓異義の漢字を使い分ける								58.1	21.4		24.7
2-(1)ウ	漢字を書く(同音異義語:開場)									36.8	18.7		21.1
2-(2)	正しい漢字を選択する(同音異義語:開場)									64.8	6.5		7.4
2二	漢字を書く(同訓異義語:かえり)									90.1	5.2		7.6
3	文章を読み返して、書き直したほうがよい理由と方法を選択する	文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲する								33.7	1.9		1.9
4	似た意味の言葉の使い分けとして適切な説明を選択する	言葉の使い方について調べ、結果から考えたことを明確に書く								53.1	1.3		1.5
5	スピーチの内容に即して、カードを並べかえる	スピーチの組み立ての工夫をとらえる								78.2	0.9		1.2
6	下書きの文章と発表原稿とを比べ、工夫したところを書く	下書きの文章と発表原稿とを比べ、発表しやすく工夫したところをとらえる								74.1	10.5		12.1
7	グラフから分かったことをメモに取る	目的や課題に即して、資料から分かったことをメモに取る								47.5	10.9		12.3
8	学校を紹介する文章に、適切な小見出しを書く	文章の内容に合わせて、小見出しを書く								78.7	13.5		14.6
9一	文章中の表現について言い換えた部分を抜き出す	目的や意図に応じて、段落の内容をとらえる								40.6	37.4		38.1
9二	筆者が伝えたかったこととして適切な内容を選択する									48.5	27.9		29.4

## 【設問分析】

### 1 漢字の読み書き

①は、学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみるための設問である。設問一では漢字を読むことについて、設問二では漢字を書くことについて、それぞれ3問ずつで構成されている。

#### 【設問一】漢字を読むこと

- (1) 5年生の配当漢字である「保護」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (2) 5年生の配当漢字である「承」と2年生の配当漢字である「知」の熟語「承知」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (3) 5年生の配当漢字である「勢」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問二】漢字を書くこと

- (1) 3年生の配当漢字である「なげる」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (2) 3年生の配当漢字である「よ」と5年生の漢字である「ぼう」の熟語「よぼう」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- (3) 5年生の配当漢字である「おうふく」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。

言語事項における「漢字を読むこと」については、全国の平均正答率と比較すると、三問中二問でやや下回っており、今後も漢字の読みについて確実な定着が求められる。

また、「漢字を書くこと」については、全ての設問において、全国の平均正答率を下回っている。これまでの札幌市の独自調査及び昨年度調査においても、「漢字を書くこと」について、課題が見られており、今後とも、繰り返しの学習はもちろんのこと、普段の学習や生活の中で定着を図る指導を一層工夫していくことが重要である。その際、例えば、漢字が日常生活の中でどのように使われているかを調べさせるなどしながら、語彙力を高めたり、高学年では、国語辞典や漢字辞典を用いて自ら漢字について調べる習慣を身に付けるなどの工夫をすることが求められる。

### 2 漢字を使い分ける

②は、前後の語句や文のつながりを考えて、同音異義や同訓異議の漢字を使い分ける設問であり、漢字を書くことについて3問、正しい漢字を選択するものについて2問で構成されている。

#### 【設問一】

- (1) 文脈における意味を考えながら「かいじょう」を漢字で書く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。
- (2) 文脈における意味を考えながら「かいじょう」を漢字で書く設問では、全国の平均正答率とやや上回っている。
- (3) 文脈における意味を考えながら、正しい漢字を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

#### 【設問二】

- ・文脈における意味を考えながら「かえり」を漢字で書く設問では、全国の平均正答率と比較して、下回っている。

同音や同訓の漢字の使い分けについては、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている設問もあることから、今後とも、文章の中で漢字を適切に使用するような学習活動を工夫するなど、漢字の適否を判断するような言語感覚を高める指導を充実していくことが重要である。

### 3 文章を推敲する

③は、文の構成や表現の効果を確かめ、正しく推敲することができるかどうかをみるための設問であり、文章を推敲するために、文の構成や表現の効果を確かめて書き直した方がよい部分を見付け、その

理由と改善の方法を選択するものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率を下回っている。

文章の推敲については、全国の平均正答率が低い状況であり、札幌市の正答率がそれを下回っていることから、文の構成や表現の効果を確かめ、推敲するために必要な事柄を指摘することに課題がある。今後、目的や課題に応じた観点を設定した推敲の指導を、一層充実していくことが必要である。観点に沿って、文の構成、文と文との意味のつながり、表現の効果などを確かめながら文章を読み返すことを、国語科のみならず、各教科の学習でも充実していくことが重要である。

#### 4 言葉の使い方を比べる

[4]は、言葉の使い方について調べ、結果から考えたことを明確に書くことができるかどうかをみる設問であり、似ている言葉の意味について調べたことをメモに取り、その内容を踏まえて考えたことを明確に書いている文を選択するものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

「書くこと」領域と言語事項にかかわる「結果から考えたことを明確に書くこと」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っており、調べて分かったことを基に、考えとしてまとめて書くことに課題がある。今後、事実と感想、意見などを箇条書きにして整理し、それらを区別して、相手に分かりやすく伝わるように簡単に書いたり詳しく書いたりする言語活動の充実とともに、まとめて書いたことが相手に正しく理解できるように言葉の使い方を検討するなどの指導が重要である。

#### 5 スピーチの組み立てをとらえる

[5]は、スピーチの組み立ての工夫をとらえることができるかどうかをみるための設問である。スピーチの内容と要約した4枚のカードの内容とを対応させるものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域にかかわる「スピーチの組み立ての工夫をとらえること」については、全国の平均正答率と比較すると、やや上回っており、全国の正答率もやや高い状況である。今後、内容の要点をメモに取って聞いたり、スピーチ原稿に書いて整理してから話したりすることなどの言語活動を充実していくことが大切である。

#### 6 発表原稿を工夫する

[6]は、下書きの文章と発表原稿とを比べ、発表しやすく工夫したところをとらえることができるかどうかをみるための設問である。下書きの文章と発表原稿を比べ、声に出して発表するために工夫したところを説明するものである。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「発表原稿を工夫すること」については、全国の平均正答率と比較するとやや下回っている。目的や相手を意識して話すための発表原稿について、工夫している事実を的確に説明できない児童がいることが推察される。調べて書いたメモや文章などを漠然と読み上げるだけでなく、聞き手が聞きやすいような話し方ができるよう、目的や場に応じて原稿の書き方を工夫する指導や、文字の配置や大きさなどを必要に応じて工夫するなど日常的な指導を重視していくことが大切である。

#### 7 分かったことをメモに取る

[7]は、目的や課題に即して、資料から分かったことをメモに取ることができるかどうかをみるための

設問である。資料から分かったことを例示された構文に合わせて書く問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「書くこと」領域における「資料から分かったことをメモに取ること」については、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。また、全国の平均正答率も低い状況にあり、特に、グラフなどの資料がどのような項目で構成されているかを理解した上で、得ようとする観点や内容に即して情報を正しく読み取り、分かったことを的確に書くことに課題がある。今後、文章だけでなく、目的や課題に応じてグラフや図表などの資料を教師が意図的・計画的に提示し、それらの読み方について重点的に指導することが必要である。より一層の指導の充実を図ることが重要である。資料から必要に応じて知識や情報を取り出し、分かったことや考えたことを書くことは、国語科のみならず、各教科等の学習においても大切である。

## 8 小見出しを書く

【8】は、文章の内容に合わせて、小見出しを書くことができるかどうかをみるための設問である。文章の中に示した2つの小見出しを参考に、語句を組み合わせて簡潔に書く問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「書くこと」領域における「小見出しを書くこと」については、全国の平均正答率と比較すると、やや下回っているものの、8割に近い正答率である。目的や課題に応じて内容を要約するためには、同じ内容について詳しく書いた文章と簡単に書いた文章とを比べて読み、両方の特徴や効果などをとらえる指導が必要である。また、話したり聞いたりしたことを整理してメモに取ることや、読んだ本や文章の内容を引用したり要約したりして書くなどの言語活動を充実していくことが重要である。

## 9 段落の内容をとらえる

【9】は、目的や意図に応じて、段落の内容をとらえることができるかどうかをみるための設問である。談話を記録した文章の一部を読み、語句や文に着目して内容をとらえる問題である。

### 【設問一】

- ・文章中の表現について言い換えた部分を抜き出す設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

### 【設問二】

- ・筆者が伝えたかったこととして適切な内容を選択する設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「読むこと」領域における「段落の内容をとらえること」については、二問中一問で全国の正答率をやや下回っており、全国の正答率もやや低い状況にある。また、無回答率も全国をやや上回っている。今後、接続語や文末表現に着目して一文一文が事実であるか、感想であるか、意見であるかななどを区別することによって文と文との関係をとらえる指導や、段落の冒頭に置かれている語句や文に着目するとともに、文の集合としてそれぞれの段落の意味のまとまりをとらえ、段落と段落との関係をとらえる指導など、文章全体の構成を押さえながら要旨を把握できるような段階的かつ重点的な指導が一層重要である。

# 設問別調査結果 [小学校国語B:主として活用]

## 分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	全国との比較	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	2	ほぼ同程度	73.0
	書くこと	8	ほぼ同程度	49.1
	読むこと	8	ほぼ同程度	48.3
	言語事項	0		
問題形式	選択式	2	ほぼ同程度	47.5
	短答式	5	ほぼ同程度	51.0
	記述式	5	ほぼ同程度	51.3

下表の札幌市全国との比較における記号は以下の基準により表記した。  
 …… +3.1ポイント以上  
 …… +0.1ポイント～3.0ポイント  
 - …… ほぼ同程度  
 …… -0.1ポイント～-3.0ポイント  
 …… -3.1ポイント以下

## 設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				問題形式			全国(公立)		札幌市	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	全国との比較	無解答率(%)
1ー	インタビューの仕方や内容について評価した理由を書く	相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら、適切な言葉遣いで聞く								76.5	8.6		10.2
1二		話し手の意図を考え、反応を示したり、内容を深めたりして聞く								69.4	11.5		13.1
2ーア	物語の冒頭部分を読んで、残雪についての特徴を書く	二つの物語文の冒頭部分における登場人物の特徴をとらえる								72.8	2.5		2.7
2ーイ	物語の冒頭部分を読んで、おかあさんグマについての特徴を書く									52.2	9.7		10.8
2二	おかあさんグマの目に入った春の訪れについての描写を書く	場面についての描写をとらえる								49.3	10.9		11.2
2三	「わるいこと」という場面の様子をとらえ、おかあさんグマの心情を書く	登場人物の心情と場面についての描写を叙述と関係付けて読む								45.0	22.7		25.0
3ー	「図書館だより」から、6年生が読書相談をすることができる曜日と時間帯を書く	目的に応じて必要な情報を取り出し、整理する								39.2	3.8		4.4
3二	「図書館だより」のグラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを書く	目的に応じて情報を読み取り、分かったことや自分の考えを明確に書く								32.8	17.6		19.9
3三(1)	「図書館だより」の内容を案内状に書き換える(案内状の題名)	目的に応じて必要な情報を取り出して、効果的に書く								41.3	11.1		12.3
3三(2)	「図書館だより」の内容を案内状に書き換える(行事の内容)									32.4	21.6		23.9
4アイウ	2つの意見文を比べて読み、文章の組み立てとして適切な内容を選択する	意見文を書くために、二つの意見文を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえる								59.4	12.7		13.4
4エオカ										35.6	14.9		15.6

### 【設問別分析】

#### 1 聞き方を工夫する 先生へのインタビュー

①は、相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら、適切な言葉遣いで聞くことができるかどうかをみるための設問である。インタビューにおいて、下調べしたことを基にし、質問する内容や順序を考えながら、相手に応じた丁寧な言葉遣いで聞いたことについて評価した理由を説明する設問である。

【設問一】

- ・相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら、適切な言葉遣いで聞く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】

- ・話し手の意図を考え、反応を示したり、内容を深めたりして聞く設問では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における「聞き方を工夫する」については、二問中一問で全国の平均正答率をやや下回っている。相手や目的に応じた内容や質問する順序を考えながら、適切な言葉遣いで聞くことに課題がある。相手や状況に応じてインタビューを進めるために、準備した内容を計画的に順序よく質問することに加えて、相手の回答や話の展開に合わせて質問内容を変更することの必要性を実感し、それらに対応できるようにするため、話し手や聞き手を相互に体験できるようなインタビューの活動を積み重ねるとともに、両者の立場になって成果や課題を評価し合う指導が重要である。

2 人物や場面の描写をとらえる 椋鳩十「母グマ小グマ」

②は、読んだ本の内容を紹介するために、登場人物の特徴、心情や場面についての描写をとらえることができるかどうかをみるための設問である。

【設問一】物語の冒頭部分における登場人物の特徴について、【メモの一部】の内容や形式を基にし、本文の言葉を使って書く設問である。

- (ア) 物語の冒頭部分を読んで、残雪についての特徴を書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

- (イ) 物語の冒頭部分を読んで、おかあさんグマについての特徴を書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

【設問二】場面についての描写をとらえることができるかどうかをみる設問である。

- ・おかあさんグマの目に入った春の訪れについての描写を書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】

- ・「わるいこと」という場面の様子をとらえ、おかあさんグマの心情を書く問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「読むこと」領域にかかわる「人物や場面の描写をとらえること」については、札幌市は、二問とも全国の平均正答率をやや上回っている。今後、登場人物の特徴を押さえた上で、人物像について想像したことを伝え合うなどの言語活動の充実や、登場人物の行動や会話に加え、時間や情景などの描写に着目し、それらを関連付けながら人物の心情をとらえる指導が必要である。

3 情報を読み取って書く 図書館だより

③は、資料から必要な情報を取り出して、自分の考えを明確にしながらかんだけり書いたりすることができるかどうかをみる設問である。

【設問一】「図書館だより」の中から6年生が読書相談をすることができる曜日と時間帯を取り出して書く問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問二】「図書館だより」のグラフから分かったことを基にし、テーマや条件に即して自分の考えを80字以上100字以内で書く記述式の問題である。

- ・この設問では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

【設問三】目的に応じて必要な情報を取り出して、効果的に書くことができるかどうかをみる問題である。

- (1) 「図書館だより」の内容を案内状に書き換える(案内状の題名)問題では、全国の平均正答率

と比較して、やや下回っている。

(2)「図書館だより」内容を案内状に書き換える(行事の内容)問題では、全国の平均正答率と比較して、やや下回っている。

「読むこと」領域における「情報を取り出して整理する」については、全国の平均正答率と比較してやや下回っており、全国の平均正答率もやや低い状況にある。「読むこと」と「書くこと」領域にかかわる「必要な情報を取り出して、効果的に書くこと」については、二問中二問で全国の平均正答率と比較してやや下回っている。今後は、目的に応じて資料から情報を正しく取り出した上で、さらにテーマや条件に合わせて書く指導が必要であり、そのために、自分の立場や主張を明確にした上で、その根拠として数値や事例などを正しく引用して書くことなどの言語活動を充実していくことや、相手に伝えるために必要な事柄について整理し、条件に応じて内容を簡単に書いたり詳しく書いたりするなどの言語活動を充実することが重要である。

#### 4 意見文の組み立ての違いをとらえる 校内のけが

4は、意見文を書くために、二つの意見文を比べて読み、文章全体の組み立ての違いをとらえることができるかどうかをみるための設問である。

- ・ 2つの意見文を比べて読み、中村さんの文章の組み立てとして適切な内容を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。
- ・ 2つの意見文を比べて読み、山下さんの文章の組み立てとして適切な内容を選択する問題では、全国の平均正答率と比較して、やや上回っている。

「読むこと」領域と「書くこと」領域にかかわる「意見文の組み立ての違いをとらえること」については、全国の平均正答率と比較して、やや上回っているが、冒頭部分と結びとが呼応する文章の組み立てをとらえる問題については、全国の平均正答率は低い状況にある。意見文の組み立てとして、冒頭部分に何を書くのか、具体的な事例をどう配置するか、それを自分の意見とどう結び付けるかを考えることが必要であり、客観的な事実や事例と感想や意見などを区別しながら、それらの関係をとらえて書く指導の充実が重要である。特に、冒頭部分と結びとの呼応についての指導を重視することが大切である。

## 国語学習に関する意識結果 【小学校】

質問事項 * 印の設問は、昨年度と同様の内容	選 択 肢			
	当てはまる	どちらかとい えば、当ては まる	どちらかとい えば、当ては まらない	当てはまらな い
国語の勉強は好きですか。 *	25.6	34.3	24.9	15.1
国語の勉強は大切だと思いますか。 *	60.7	29.1	7.3	2.7
国語の授業の内容はよくわかりますか。 *	33.9	44.6	16.5	4.9
読書は好きですか。 *	48.4	23.7	16.9	11
新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか。 *	39.2	32.8	19.7	8.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。 *	52.6	31	12.3	4.1
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。 *	19.2	37.2	33	10.4
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。	19.2	38.5	31.4	10.7
国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。	27.3	39.6	25.3	7.6
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいますか。	33	39.6	20.6	6.5

（単位は％）

### < 設問分析 >

「国語の勉強は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、59.9%となっており、全国平均を 3.8 ポイント上回っている。本設問については、昨年度調査において、肯定的な回答が 63.1%と、同様の傾向が見られている。今後とも、引き続き児童の興味関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。

「国語の勉強は大切だと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、89.8%と高くなっており、さらに、全国平均を 0.4 ポイント上回っている。今後とも、体験的な言語活動を取り入れた学習や、実生活に生きてはたらく学習を工夫することによって、国語の学習の意義や価値に気付くような授業を行うことが求められる。

「国語の授業の内容はよくわかりますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、78.5%となっており、全国平均を 0.5 ポイント上回っている。また、平成 19 年度の札幌市調査よりも 0.3 ポイント上回っている。引き続き、児童の実態に即した指導や、意欲を喚起する学習内容、基礎的基本的な指導事項の習熟とともに、個に応じた指導の充実を図ることが求められる。

「読書は好きですか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、72.1%となっており、全国平均を 0.2 ポイント下回っている。札幌市では、今年度から一斉読書の推進に取り組んでおり、今後、各学校での読書活動の取組の一層の充実が求められる。

「新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、72.0%となっており、全国平均を 3.5 ポイント下回っている。今後、漢字の指導においては、作文や発表の原稿作りなどを含めた、文章の中で使う指導の充実を図り、日常生活の中で漢字を使おうとする意識を培っていくことが求められる。

「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、83.6%となっており、全国平均を 1.4 ポイント下回っている。平成 19 年度の札幌市調査と比較しても肯定的な回答が 3.2 ポイント下回っている。今後、国語学習の有用性を実感できる指導を一層工夫改善していくことが求められる。

「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、56.4%となっており、全国平均と同様の結果となっている。また、「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、57.7%となっており、全国平均を 0.4 ポイント上回っている。今後とも、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導において、相手や目的に応じて、自分の



考えを持ち、伝わりやすいように組み立てなどを工夫する学習活動を位置づけていくことが、求められる。

「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、66.9%となっており、全国平均を 0.2 ポイント下回っている。今後、自分の考えを持つことと同様、その根拠をはっきり持つことのできるような児童の疑問や課題を生かし、問題意識を喚起する授業を工夫することが、求められる。

「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」という質問では、肯定的に回答した割合が、72.6%となっており、全国平均を 0.7 ポイント上回っている。「読むこと」の授業において、目的に応じて、事実と意見を区別したり、段落相互の関係を意識しながら読む指導の一層の充実が求められる。